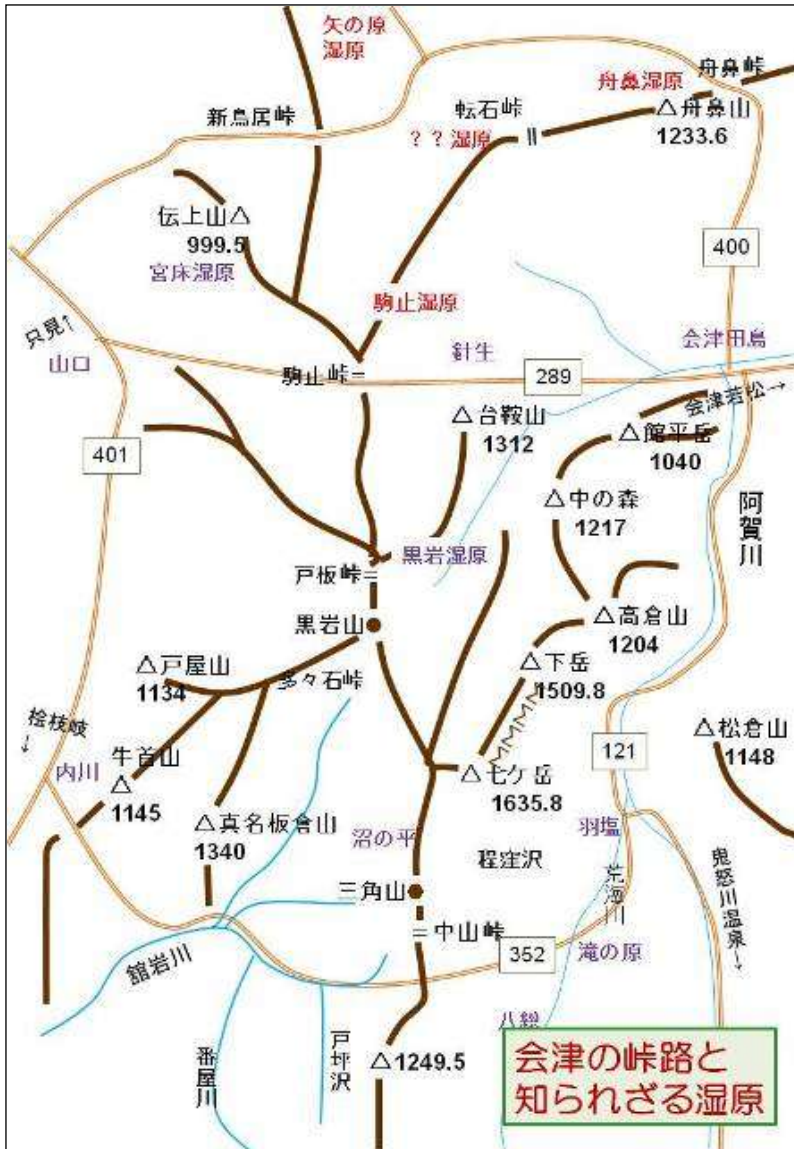


踏み跡 <My Mountains>



会津の湿原巡りも回を重ねて4回目になっただろうか。もう三年の月日が流れた。出かける度に地図をじっくり見ていると、また新たなターゲットが見つかる。今回はかみさんを誘って、何度となく出かけた駒止湿原の奥に足を踏み入れてみることにした。残雪の山が楽しめそうな5月末。

平成6年5月29日
張り切って4時に起床し朝食をとらずに4時半に出発。快晴、通り慣れたルートである岩槻インター・那須塩原インター・塩原温泉・尾頭トンネル・山王峠を経由して会津田島へ。駒止峠の峠の茶屋に泊って見ようと思って電話をしたが満員で断られた。仕方なく、会津へ通ううちに馴染みになった針生の民宿万久に電話をして見たが留守で連絡がとれず。宿の手配は(何とかなるだろうからと)後回しにして、まずは国道400号線を北上して第一の目標地点である舟鼻峠へ。峠路のそこかしこに山菜採りと思われる車が止まっている。舟鼻峠9時30分着。稜線の北面を舐めるように走る林道を駒止湿原まで抜けてみたいと思っていたが、ゲートが閉まって立入禁止になっているので、車を置いて歩いてみることにした。

林道は残雪が至る所にあり、林道を雪ですっぽり覆っている所も何箇所もある。「立入禁止」が納得できるような「冬の山」の状態。林道の路傍にはムラサキヤシオが鮮やかに輝き、雪が消えたばかりの足元にはショウジョウバカマなどなど。そして雪が消えて完全に春になった場所にはタラノメ・ゼンマイ・ワラビ…。今回のターゲットのひとつの湿原である舟鼻山の西側の湿原(舟鼻湿原と名付けてみた)まで行ってみた。三か所ある湿原は笹に覆われてかなり後退してはいるが、明瞭に湿原の形態が残っている。わざわざ見に来た甲斐があった。見上げる高さには山ブドウがまだ出たばかりの若芽を日にあてて光っていた。昼食をとって元の道に戻り舟鼻峠へ戻った。

舟鼻峠発13時30分、国道400号を下りながら行き当たりばったりで山菜採り。ワラビはかなり採れた。会津田島まで戻り再び民宿万久に電話をして見たら、奥さんが入院してしまったので今日は泊っていただけないとのこと、近くの皆川屋を紹介していただいた。

宿が決まってほっと一安心の結果、まだ時間が早いので駒止湿原へ。ミズバショウ、リュウキンカ、イワナシ、ショウジョウバカマが真っ盛り。水無谷地の奥の林道まで散策して、夕暮れの迫りを感じて針生の皆川屋へ。

皆川屋17時45分着。この宿の奥さんは万久のおばあちゃんの娘、つまり身内の民宿だった。万久へ何年か通った話をしたら会話が弾み歓待してくれた。挙句の果てに、万久でアスパラガスの栽培をしていると聞いて食後に遊びに行き少々分けていただいた。

踏み跡 <My Mountains>

平成6年5月30日

天気は晴れ、早朝の散歩でも・・・ということになり、5時に起きて5時半に出発。

「峠の茶屋」から林道に入ってすぐの左手に広がる湿原に踏み込んでみた。湿地帯はミズバショウとコバイケイソウばかりで、特にミズバショウは満開の状態。足元の水の中を見るとサンショウウオの卵が沢山見え、見応えのある湿原だった。

次に卵池、そして途中で「冷湖霊泉」と名付けられた美味しい水場を見つけて水を汲んで帰った。途中でワラビとウドをたっぷり採り、素晴らしい土産になった。

8時に民宿に戻って朝食、ひと休みの後9時に出発。

気に入ってしまったので、再び卵池・霊泉とたどって大芦へ下った。そして次のターゲットの矢の原湿原へ。矢の原湿原は真っ白なワタスゲの平原。矢の原沼は風もなく静かな水面に木々と空が写って鏡のようだった。散策の後昼食。昨日の夕食が多すぎたせいかあまりおなかが空かないので、農協で買ったカップヌードルが今日の昼食。

帰り道は早めにスタートして寄り道を楽しみながら、それでも19時には家に着いた。

まだかなり雪が残っている春の終わりの会津の山は「花の山」を楽しむのにちょうどよかった。

やはり越後と会津の山には「雪と花」は欠かせない。

以上

